様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

コース等名	芸術系コース（美術）	記載責任者	小川　勝

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教員養成の質保証

大学の機能別分化・機能強化が求められる中，本学は教員養成大学として高度専門職業人としての教員を養成することを目標としている。教員養成の質保証のため，専攻・コースではどのような取り組みを行うか，具体的な方策を示してほしい。

1．目標・計画

即戦力として、採用されれば目的を達成したとして、目標を見失うような教師ではなく、現役教師として、常に自ら学ぶ姿勢を見失わない教員を養成しなければならない。美術コースとしては、美術・図画工作教師の基盤となる制作する力を生涯にわたって維持しつづける習慣を本学在学中に身につけるように指導している。ともすれば、現場の忙しさや、家庭の事情などで、制作を一時休止する美術教師が多い中、本コースの卒業・修了生には、作品に関わることを忘れることなく、自らの技量を磨きつつ、児童・生徒にモデルとなる姿勢を示し、かつ、子どもたちからも貪欲に吸収する精神を貫いてもらいたいものである。それが無理な場合でも、美術に対する関心は持続して、常に近隣の美術館で作品鑑賞する習慣は見失ってほしくないところである。それは、実際にはいうほど簡単なことではないと認めつつ、それを可能とする人材を養成するため、本コースでは以下のような取り組みを行っている。
本コースの最も重要な事業は、毎年2月に徳島県文化の森総合公園内の徳島県立近代美術館で開催している「卒展・修了展」であり、学部4年次生、大学院M2生、L3生の実技ゼミ所属学生は、そこで学生生活の集大成である卒業作品・修了作品を展示するために、全力を尽くして制作するのであり、その経験が、生涯にわたって制作を継続するための基盤を形成することだろう。また、展覧会開催に向けての様々な準備も実務的な経験の蓄積となり、教育現場での学級経営に資するところ大だろう。展覧会と同時に、論文で卒業・修了する学生の発表会も開催し、美術館学芸員などの学外の専門家のアドバイスも得ている。
修了研究の中間発表も、本コースの大きな行事であり、学部生もまじえて、活発な議論を展開している。教員も、大学院生も、さらに学部生も、共に美術の真の姿を追い求める仲間として、時には批判的な指摘も含め、激しい討論を重ねている。実技制作も含めて、学術研究の実際に触れることにより、高度専門職業人としての教員の自覚を築くことになるだろう。
通常の授業、ゼミ指導においても、もちろん、それぞれの担当教員が受講生、ゼミ生の美術における実力の涵養に努めている。特にゼミ指導においては、徹底的な個人指導により、学生の特性を見いだし、それを伸ばすことにより、得意分野を確立させて、それを教員になってからも長きにわたって追求してゆく実力を獲得させなければならない。それが本コースの目指す教員養成の質保証である。

2．点検・評価

学長裁量費により「修了展・卒展」を開催できることが年度早々に決定され、余裕を持って準備することができ、結果的に充実した作品群を展示することができた。それ以外にも、中間発表、通常の授業、ゼミ指導などで、将来にわたって学び続ける姿勢を涵養できるよう指導を徹底した。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

1．教育・研究面で活用できる資料を専修室と院生研究室に提供し、閲覧可能とする。
2．予習・復習および研究が捗るよう、院生研究室の照明など環境面を改善する。
3．学生どうし、院生どうしが相互啓発のため、自主的に連絡を取り合えるよう態勢づくりを促す。

2．点検・評価

3つの年度目標を達成すべく、院生研究室と学部生専修室の充実を実現した。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

1. 科学研究費補助金の申請等、積極的に外部資金の獲得をはかる。
2. 実技系教員の、公募団体展、コンクール展、グループ展、個展等での作品発表を推進する。
3. 学会等の学術団体における研究を推進する。

2. 点検・評価

3つの目標とも、所定の成果を得ることができた。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

1. 全員が、部会議、コース会議で積極的に発言し、大学運営に寄与する。
2. 各自が、委員として学内の各種会議に出席し、職務を遂行する。
3. メールを活用し、重要な事柄についてコース内での課題意識を共有する。

2. 点検・評価

多くの教員が退職した後、新規に採用された教員もおり、授業担当など新たな体制を構築する必要があり、各教員が前向きに議論を重ねて、よりよい教育指導体制が構築できた、と自負している。その他、学内でも、積極的に職務をこなして、大学運営にも貢献できたのではないか。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

1. 目標・計画

1. 附属学校園で行われる授業研究会や実地教育にできるだけ参加して指導助言する。（附属学校）
2. 初等中等教科教育実践Ⅰ等（学部）、教育実践フィールド研究（大学院）の授業を通して、附属学校園との連携を深める。（附属学校）
3. 公開講座を開講し、地域との連携に貢献する。（社会連携）
4. 大塚国際美術館など地域の美術館との連携を図る。（社会連携）
5. 外国人留学生を積極的に受け入れ、全員の協力で指導にあたる。また留学生を派遣する場合も快く支援する。（国際交流）
6. 教員が国際学会に出席し、かつ海外での調査研究を積極的に行って、国際学会との連携を密にする。

2. 点検・評価

掲げた6つの目標とも、所定の成果を上げることができたが、特に大塚国際美術館との連携事業では、広く報道されるなど、大学の社会的貢献に寄与できたと自負している。

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）

本学における美術の専門家集団として、社会的な活動を活発に行い、本学の社会的存在感を増すことに貢献できたと自負している。それ以外にも、学生の指導や様々な行事を通して、本学の基礎的な力量の構築に寄与できたと自負している。